

地域に対する愛着の形成過程

東北工業大学大学院 学生会員 引地 博之
東北工業大学 正会員 青木 俊明

1. はじめに

近年、地域に愛着を持つ住民が積極的にまちづくり活動に参加するなど¹⁾、地域に対する愛着によって、協力行動が促されることが報告されている。このことから、協力行動の促進方策として、住民の愛着形成を促すことが重要とされている。しかし、現状では効果的な愛着形成策は確立されていないことから、地域に対する愛着の形成過程を明らかにすることが必要だと考えられる。

既存研究では²⁾、地域に対する愛着は住民と地域の情緒的な結び付きであることが示唆されている。これに対して、社会的アイデンティティ研究³⁾⁴⁾では、個人と所属組織が結び付く過程が理論化されていることから、これらの知見を用いて愛着形成過程を検討する。このとき、Hidalgo²⁾らは、物質的環境と社会環境に対する愛着の存在を報告している。また、近年では景観や社会的ネットワークの整備が重要とされていることから⁵⁾、愛着形成過程を検討する際にも、地域環境を物質的側面と社会的側面に区別することが重要だと考えられる。

以上より、本稿では地域の物質的環境と社会環境に着目し、社会的アイデンティティ研究の理論フレームを用いて愛着形成過程を検討する。なお、物質的環境は景観等の地域の物質的環境を構成する要素とし、社会環境は住民同士の交流を促す社会状況と設定する。また、地域に対する愛着は、Hidalgoら²⁾の定義にならい、人と地域を情緒的に結び付ける感情とする。その際、地域の範囲は、日常生活行動圏と定義する。

2. 仮説

社会的アイデンティティ理論³⁾に基づけば、人は肯定的な自己評価が得られる集団に所属意識を高め、愛着を形成する。このとき、所属集団に対する評価は自己評価に反映することから⁶⁾、構成員は集団を高く評価することで所属意識が高まると推測される。従って、地域の物質的環境に対する評価が高まるほど、地域に対する所属意識が高まると考えられる(仮説1)。同様に、地域の社会環境に対する評価が高まるほど、所属意識が高まると考えられる(仮説2)。また、近年の人々は人付き合いなど、社会環境の改善を求めていることから⁷⁾、社会環境に対する評価は物質的環境に対する評価以上に所属意識の向上をより促すと推測される(仮説3)。

次に、集団に対する所属意識は自己概念の一部を構成することから⁶⁾、所属意識の高い集団は個人にとって重要な存在となり、愛着が形成される⁸⁾。このことから、地域に対する所属意識が高まるほど、地域に対する愛着も高まると考えられる(仮説4)。また、既存研究では、居住年数の長さが愛着形成を強く促すことが示されてきた²⁾。しかし、個人と集団の情緒的な結びつきには、集団と接する頻度に比べて自己概念と集団の関連性が強い影響を与えることから⁸⁾、居住年数以上に所属意識が愛着形成をより促すと推測される(仮説5)。また、個人にとって、重要な集団の評価は自己概念に大きな影響を与えるため、地域に対して高い愛着を持つ住民ほど、地域価値の向上に結びつくイベント等に協力意向を示すものと推測される(仮説6)。

3. 調査概要

郵送法による質問紙調査を行った(表-1)。調査対象者は全国16市町から有権者4000名を無作為に選出した。有効回答者数は1062名(回収率26.6%)、平均年齢は53.7歳(SD=14.48)、平均居住年数は27.3年(SD=19.49)であった。全ての質問項目は6件法を用いて回答された。

4. 分析結果

まず、物質的環境と社会環境の総合的な指標を作成す

表-1 質問項目と平均値、標準偏差

	質問項目	平均値(SD)
物質的環境 に対する評価	景色の美しさ この地域の街並みや自然はきれいだと思う。	3.71(1.17)
	歴史的風景 この地域の街並みからは歴史が感ぜられる。	3.30(1.25)
	シンボル 大きな山や建物など、地域の人々が知っている地域のシンボルがある。	3.89(1.46)
社会環境 に対する評価	交流の多さ 日頃、地域の人々と交流を持つことが多い。	3.40(1.30)
	祭り・イベント 毎年、この地域で行われる祭りやイベントを楽しみにしている。	3.59(1.22)
	人々の人柄 この地域の人々は親切だと思う。	3.97(0.92)
地域に対する 愛着	この地域に対して愛着がある。	
	この土地は自分にとって大切な場所である。 この地域に対して誇りを持っている。	4.07(0.99)
所属意識	自分は、自分が住んでいる地域社会の一員だと強く思う。	3.77(1.08)
	協力意向 地域のためであれば、多少の不便はやむをえない。	3.54(0.94)

るために、両環境の評価項目から平均評定値を求めたところ、物質的環境に対する評価(M=3.63, SD=0.97)と社会環境に対する評価(M=3.65, SD=0.87)が得られた。これらの係数は物質的環境に対する評価(.60), 社会環境に対する評価(.61)であった。また、地域に対する愛着(.82)も得られた。係数は.60 が内的整合性の判断基準とされる場合もあることから⁹⁾, これらの変数は一定の内的整合性を持つと考えられる。次に、住民の地域に対する愛着形成過程を検討する

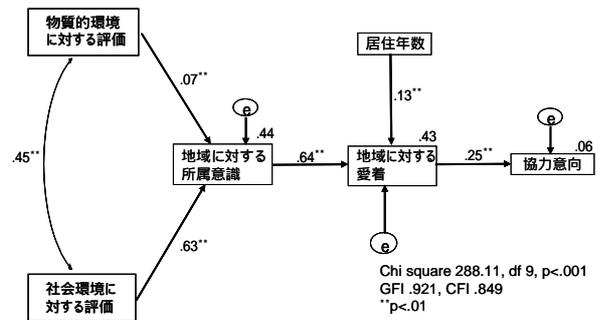


図-1 地域に対する愛着の形成過程

ために共分散構造分析を行った(図-1)。その結果、物質的環境と社会環境に対する評価が高まるほど、地域に対する所属意識も高まることが分かった。従って、仮説1と仮説2は支持された。その後、線形仮説の検定により、所属意識の形成には、社会環境に対する評価が物質的環境に対する評価以上に強い影響を与えることが示された($Z=13.91, p<.01$)。これより、仮説3は支持された。また、地域に対する所属意識が高まるほど地域に対する愛着も高まることが分かった。その後、線形仮説の検定により、所属意識は居住年数以上に愛着形成を促すことが示された($Z=27.12, p<.01$)。このことから、仮説4と仮説5も支持された。次に、地域に対する愛着が高まるほど協力意向も高まることが分かった。これより、仮説6も支持された。

5. 考察

分析結果より、地域に対する愛着形成には、特に社会環境の改善が有効であることが示された(図-1)。従って、今後の愛着形成策では住民同士のコミュニケーションを促すことが重要になると考えられる。例えば、小規模の事業であっても、地元住民に参加を求めることなどが有効策になると思われる。このとき、愛着形成には集団の一員であることの自覚を促すことが重要であることも示されている。このことから、住民参加型の施策では、事業に対する理解を促すなど、住民が地域の一員として事業に関わることができるよう工夫することが重要である。このような試みの積み重ねにより、地域に対する愛着が高まるものと考えられる。

次に、地域に対する愛着が高まるほど、協力意向が高まることも示された。社会的アイデンティティ理論³⁾では、構成員は所属集団と他の集団を差別的に扱う傾向があると述べられている。このことより、地域に愛着を持つ住民は、自分の居住地域に比べて他の地域に対する協力的行動が少ないものと予測される。従って、地域に対する愛着が促す協力的行動は、その対象が居住地域に限定される可能性があると考えられる。

最後に、Bowlby¹⁰⁾は母子間の愛着形成では、母親が身体的な休息や精神的な安定を与える「安全の基地」となることが重要であると述べている。地域社会では、住民同士の交流が豊かな人ほど、様々なソーシャル・サポートを享受し、身の安全や安心を得ることが報告されている¹¹⁾。これらのことから、「安全の基地」となりうる居住地を創ることが、地域に対する愛着形成にとって重要になるものと考えられる。

参考文献

- 1) 内閣府：平成16年版 国民生活白書，国立印刷局，2004。
- 2) Hidalgo, M. C. and Hernandez, B. : Place Attachment : Conceptual and Empirical Questions, *Journal of Environmental Psychology*, 21, pp. 273-281, 2001.
- 3) Tajfel, H. and Turner, J. C. : The Social Identity Theory of Intergroup Behavior, *Psychology of Intergroup Relations*, Nelson-Hall, pp. 7-24, 1986.
- 4) Hogg, A. M. : *The Social Psychology of Group Cohesiveness - From Attraction to Social Identity-*, Harvester Wheatsheaf, 1992, 邦訳：廣田君美, 藤澤 等：集団凝集性の社会心理学，北大路書房，1994。
- 5) 高見沢 実 編著：都市計画の理論 - 系譜と課題 - ，学芸出版社，2006。
- 6) 小林 裕，飛田 操：教科書 社会心理学，北大路書房，2002。
- 7) NHK放送文化研究所：現代日本人の意識構造，日本放送出版協会，第六版，2005。
- 8) 狩野素朗：個と集団の社会心理学，ナカニシヤ出版，1987。
- 9) 松井 豊：心理学論文の書き方，河出書房新社，2006。
- 10) Bowlby, J. : *A Secure Base : Clinical Applications of Attachment Theory*, Tavistock/Routledge, 1988, 邦訳，河田潤一 監訳：母と子のアタッチメント - 心の安全基地 - ，医歯薬出版株式会社，2004。
- 11) 村田義郎，延藤安弘：公営住宅建替計画策定における住民参加とソーシャル・サポートに関する考察 - 長府古城団地建替計画策定を事例として - ，日本建築学会計画系論文集，No. 523, pp. 171-178, 1999。